

令和 2 年 7 月 7 日現在

機関番号：35414

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K11974

研究課題名(和文) 専門看護師の「複雑で対応困難な問題」の明確化とコンサルテーション事例集の作成

研究課題名(英文) Clarification of complicated and difficult problems for Certified Nurse Specialist &amp; Preparation of consultation casebook

研究代表者

植田 喜久子 (Ueda, Kikuko)

日本赤十字広島看護大学・看護学部・教授

研究者番号：40253067

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：専門看護師が臨床場面で有用なコンサルテーションを行うために、専門看護師教育課程や新人専門看護師の学修教材を洗練化し、専門看護師のコンサルテーション能力の充実が求められる。専門看護師へのインタビューに基づき、「複雑で対応困難な問題」11カテゴリを明らかにした。さらに専門看護師がそれらの問題に対する判断と行動9カテゴリ、専門看護師のClinical pearl(コンサルテーションを行う際の大切なポイント)25カテゴリを明らかにした。最終的に調査結果に基づき、専門看護師複数名と専門看護師教育課程責任者らが執筆するコンサルテーション事例集の構成案を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究において、専門看護師が行うコンサルテーションにおける「複雑で対応困難な問題」それらに対する判断と行動、その際に専門看護師がClinical pearlが明らかになり、コンサルティやクライアントのニーズに応じた専門看護師のコンサルテーションをめぐる臨床の知の重要性が示唆された。高度実践看護師教育課程の「コンサルテーション論」の検討、新人専門看護師の学修支援に役立つといえる。また、専門看護師が行ったコンサルテーション事例は、知の共有となり、コンサルテーション能力の育成、多職種との連携・協働できる組織システムの構築につながる。

研究成果の概要(英文)：In order for Certified Nurse Specialist (CNS) to carry out useful consultation in clinical settings, it is important to sophisticate the study learning materials of their curriculum and new CNS, and enhance the consultation skills of CNS. Based on the interview to CNS, 11 categories of "complex and difficult problems" were clarified. In addition, 9 categories of assessment and behavior for those problems were clarified. And 25 categories of the CNS's Clinical Pearl were clarified. Finally, based on the results, we created a draft proposal for a consultation casebook. We tried the making of the consultation casebook which several CNS and 4 professors.

研究分野：がん看護学

キーワード：コンサルテーション 専門看護師 複雑で対応困難な問題 Clinical Pearl 事例集

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

コンサルテーションは、「単にアドバイスをするだけでなく、内外の資源を用いて問題を解決すること」である (Underwood, 1995)。コンサルテーションは、専門看護師など高度実践看護師にとって新たな役割となっている。

また、コンサルテーション能力は、チームを形成し専門性の相違を尊重したうえで多職種間の協働を推進するために必要であると位置づけられている。専門看護師教育課程では、『コンサルテーション論』を専門看護師教育課程のすべての分野における共通の授業科目の一つとして位置づけ、「看護職を含むケア提供者に対して、実践的な問題を解決するのを助けるためのコンサルテーションに必要な知識を教授する科目を設けていること (平成 27 年度版専門看護師教育課程基準, 2015) とある。各大学院の『コンサルテーション論』の授業科目担当者は実践力重視の学修により主体的に取り組み、課題解決能力の育成をめざしている。一方で、看護師をはじめケア提供者がコンサルテーションについて共通理解していくことが重要であるが、学生は、実習が短期間であり、ケア提供者からコンサルテーションの依頼がないことで、専門看護師のコンサルテーションを見学したり、学生自身が実習中にコンサルテーションを実施したりすることが困難な状況にある。

専門看護師が体験する「複雑で対応困難な問題」とは、何かを明らかにし、それに対するコンサルテーションの事例集を作成することは、大学院生、新人の専門看護師そして専門看護師教育課程の担当者にとって有用な学修教材になり、コンサルテーションの本質を理解し、コンサルテーションに必要な知識や技術の活用についてイメージ化しやすくなると考える。さらに作成したコンサルテーション事例集が専門看護師教育課程での学修や勤務する専門看護師に適切であるか、有用であるかを検証することが必要であると考えた。

### 2. 研究の目的

本研究では、専門看護師の「複雑で対応困難な問題」とは何かを明らかにし、専門看護師が実践しているコンサルテーションの現状と課題、コンサルテーションの体験の意味と Clinical Pearl (格言)、コンサルテーションの構成要素を明らかにし、専門看護師や看護師をはじめその他のケア提供者のコンサルテーション能力を育成するための事例集を開発することである。

### 3. 研究の方法

**第 1 段階：専門看護師が認識する「複雑で対応困難な問題」の明確化とそれに対するコンサルテーションの実施状況の面接調査**

- (1) 研究参加者 7 ~ 10 名。研究参加者のリクルート方法は、専門看護師を雇用している病院 10 施設の管理者に、研究依頼文書の郵送により研究参加者の紹介を依頼した。研究参加者の条件は、専門看護師としての経験があること、自ら実施したコンサルテーションを語ることを承諾できることとした。なお、専門看護師の分野は、管理者と相談して決定することとした。
- (2) データ収集方法：研究参加者 7 名が体験したコンサルテーションについて半構成的インタビューガイドに基づき、個別に面接調査を行った。
- (3) 調査内容  
基本属性：年齢、性別、専門看護師の分野と経験年数、看護職の経験年数、職位と勤務形態、勤務部署など。  
専門看護師が体験した複雑で対応困難な問題に対するコンサルテーションの一事例
- (4) 分析方法  
インタビュー内容から逐語録を作成し、「複雑で対応困難な問題は何か」「複雑で対応困難な問題に対するコンサルテーションにおける判断と行動」「コンサルテーションにおける Clinical Pearl (格言) を抽出し、質的帰納法的に類似性や相違性に基づきカテゴリを作成した、さらに、研究者らで分析を繰り返し、カテゴリを洗練化した。
- (5) 研究代表者の所属する大学の研究倫理審査委員会の承認を得て実施した (No. 1608)。

**第 2 段階：コンサルテーション事例集の構成案の作成**

- (1) コンサルテーション事例集 (構成案) の作成  
研究者、専門看護師 5 名により、「複雑で対応困難な問題」の明確化を行う。
- (2) コンサルテーション事例集の作成と洗練化

### 4. 研究成果

**第 1 段階の研究成果**

#### (1) 研究参加者の概要

研究参加者は 7 施設から 7 名であった。全員女性。年齢では、30 歳代 3 名、40 歳代 3 名、50 歳代 1 名であった。専門看護師 (以下、CNS とする) の分野では、がん看護 3 名、小児看護、慢性疾患看護、急性・重症看護、リエゾン精神看護が各 1 名であった。CNS の経験年数は、最小 2 年 8 か月、最大 9 年 10 か月であった。看護師の経験年数は、最小 12 年 2 か月、最大 26 年 4 か月であった。

## (2) 複雑で対応困難な問題の明確化

複雑で対応困難な問題では、11 カテゴリが明らかになり、【コンサルテーションの基盤である対等な人間関係の形成困難】、【CNS自身のスタンスに悩む】、【コンサルテーションが浸透していない医療者の存在】、【変化している患者の迅速な把握困難】、【不明確な問題や解決方法への迷い】、【複数の問題を有し、高度なケアを必要とする患者への介入】、【医療者を信頼できない患者への介入】、【医師に不満を持つ患者への介入】、【患者と家族との合意意思決定支援】、【コンサルテーションの見えない成果】、【症状マネジメントに効果がなく持続するトータルペイン】であった。

【コンサルテーションの基盤である対等な人間関係の形成困難】、【CNS自身のスタンスに悩む】、【コンサルテーションが浸透していない医療者の存在】の3カテゴリは、コンサルテーションが浸透していない組織でのコンサルテーションの展開や人間関係の形成が問題であった。【変化している患者の迅速な把握困難】、【不明確な問題や解決方法への迷い】、【複数の問題を有し、高度なケアを必要とする患者への介入】、【医療者を信頼できない患者への介入】、【医師に不満を持つ患者への介入】、【患者と家族との合意意思決定支援】の6カテゴリでは、コンサルテーションにかかわる複数の人間の認知や状況を理解し、両者の合意形成と意思決定尾支援の実践に関する問題であった。【コンサルテーションの見えない成果】、【症状マネジメントに効果がなく持続するトータルペイン】の2カテゴリでは、CNSが模索しながら介入していくが、一向にコンサルテーションの成果や効果がみられないことが問題であった。

CNSの複雑で対応困難な問題とは、対等な人間関係を形成しながらコンサルテーションとなるように、コンサルティ自らが取り組めるように関わること、そしてCNSがコンサルタントとして介入しているが思うように成果や効果がみられないことであった。

## (3) CNSの判断と行動

CNSの判断では、【CNS自身が得た情報からクライアントの全体像を明らかにする】、【医療者の思いや考えを共有し問題の本質を協働して明らかにする】、【日頃から組織の強みや課題を分析する】、【コンサルテーションのタイプ、モデル、プロセスを決定する】の4カテゴリが明らかになった。

【CNS自身が得た情報からクライアントの全体像を明らかにする】、【CNS自身が得た情報から判断する】では、過去に他者から得た情報に固執しないで自らが得た情報によりアセスメントすると決めていた。【医療者の思いや考え、問題の本質を協働して明らかにする】、【日頃から組織の強みや課題を明らかにする】、【コンサルテーションのタイプ・モデル、プロセスを決定する】では、CNSは問題解決に向かう方略を具体的に段取りしていた。

CNSの行動では、【コンサルテーションの基盤となる知識や技術を活用する】、【クライアントの状況を確認しながら、多職種でケアできるように関わる】、【CNS自身が主体的にケアを実践する】、【CNSが多職種とともにケアを実践する】、【コンサルティやクライアントの思いや認識を確認しながら問題解決を行う】の5カテゴリが明らかになった。

【コンサルテーションの基盤となる知識や技術を活用する】では、専門看護師は知識や技術を駆使し活動していた。また、【クライアントの状況を確認しながら、多職種でケアできるように関わる】、【CNS自身が主体的にケアを実践する】、【CNSが多職種とともにケアを実践する】、【コンサルティやクライアントの思いや認識を確認しながら問題解決を行う】では、あくまでコンサルテーションが看護実践となるように工夫していた。

## (4) CNSのClinical Pearl

CNSのClinical Pearlでは、25 カテゴリが明らかになった。25 カテゴリは、【問題の本質を見極めることである】、【プロセス、特に最初と最後が大切である】、【関係性こそがコンサルテーションの土台である】、【コンサルティが主体的に判断・実践できるように関わる】、【CNSの在り方を模索する】、【看護師がコンサルテーションを依頼しやすく工夫する】、【他者にスーパーバイズを求める】、【CNSは、不安・迷い・もどかしさを自覚する】、【CNS自身の能力の限界を自覚する】、【コンサルテーションに使命感を持って取り組む】、【CNSの存在価値をみいだす】、【CNSは黒子の存在である】、【チーム医療における多職種との関係性を重視する】、【看護職への怒りや否定からは何も生まれない】、【コンサルティと対面して話しあう】、【コンサルティが語る現象を冷静に客観的に捉える】、【部署のキーパーソンを見極める】、【部署の看護実践を承認する】、【部署の看護実践をほめる】、【コンサルティのモチベーションを下げないように話す】、【CNSがモデルとしての看護実践とその効果を示す】、【CNSの看護実践がモデルであると強調しない】、【対応のタイミングをはかる】、【コンサルテーションを多面的に評価する】、【看護師長やコンサルティと成果を共有する】であった。

【問題の本質を見極めることである】、【プロセス、特に最初と最後が大切である】、【関係性こそがコンサルテーションの土台である】、【コンサルティが主体的に判断・実践できるように関わる】の4カテゴリでは、CNSはコンサルテーションの本質を基盤として実践していた。

【CNSの在り方を模索する】、【看護師がコンサルテーションを依頼しやすく工夫する】、【他者にスーパーバイズを求める】、【CNSは、不安・迷い・もどかしさを自覚する】、【CNS自身の能力の限界を自覚する】、【コンサルテーションに使命感を持って取り組む】、【CNSの存在価値をみいだす】、【CNSは黒子の存在である】の8カテゴリでは、CNSは試行錯誤しながら最

善解、最適解を導く努力をしていた。

【チーム医療における多職種との関係性を重視する】、【看護職への怒りや否定からは何も生まれない】、【コンサルティと対面して話しあう】、【コンサルティが語る現象を冷静に客観的に捉える】、【部署のキーパーソンを見極める】、【部署の看護実践を承認する】、【部署の看護実践をほめる】、【コンサルティのモチベーションを下げないように話す】、【CNSがモデルとしての看護実践とその効果を示す】、【CNSの看護実践がモデルであると強調しない】、【対応のタイミングをはかる】の11カテゴリでは、CNSは、多職種と対等な人間関係形成を重視し、チーム医療により問題の核心にアプローチしていた。

【コンサルテーションを多面的に評価する】、【看護師長やコンサルティと成果を共有する】の2カテゴリでは、CNSは多職種と変化を評価し共有することで肯定的な組織文化を形成していた。

CNSは、自己の限界を自覚しながら、コンサルティと対等な関係を築く努力をして対話を通して問題の本質を見だしていた、さらにCNSは問題の緊急性を判断してタイミングをはかり、現実を否定するのではなく、変革・改善への使命感を持ってコンサルテーションに取り組んでいた。

## 第2段階の成果

### (1) コンサルテーション事例集の構成案

本研究の成果である専門看護師の「複雑で対応困難な問題」に焦点をあてて構成していくこととした。具体的には、コンサルテーションが浸透していない組織での取り組み方、医療チームでのアセスメントの合意と介入、患者が医師を信頼できず不満を述べたり、症マネジメントに成果ができず方法に悩んだりする、合意意思決定支援など倫理調整を必要とする介入である。

コンサルテーション事例集では、第1段階に分析した文献検討や調査結果に基づき事例集の趣旨を次の3点とした。

コンサルテーションの基礎的知識や技術を明示すると同時に、CNSによるコンサルテーションの具体的な実践を理解できる。

CNSが体験したコンサルテーション事例を記述することで臨床に密着した学修媒体をめざす。

高度実践看護師教育課程(専門看護師)におけるコンサルテーション能力育成に関する知見を明示する、とし

総論編では、コンサルテーションの基礎的知識や技術を明示し、CNSの役割や活動と関連する内容とする。

専門看護師の役割とコンサルテーション、

コンサルテーションの定義、語源、モデルとタイプ、活用方法

高度実践看護師教育課程(専門看護師)におけるコンサルテーション能力の育成

事例編では、次の内容とし、第1段階の成果を活用し、具体的に専門看護師の臨床の知を学ぶことができる内容とする。医療や看護の質の向上に有用な事例を選択し、研究者間、執筆者と検討して整理していく。

CNSがコンサルテーション能力を育むために努力していること

CNSとして、所属する組織でコンサルテーションを始める際の取り組み

医療チーム、多職種、多機関とのコンサルテーションの取り組み

うまくいったコンサルテーションのみでなく、専門看護師が努力・工夫した取り組みや失敗と思える体験からの学び

### (2) コンサルテーション事例集の作成 今後の課題

研究代表者が令和2年3月末日に定年退職となり、研究期間延長が不可能となったが、コンサルテーション事例集の作成に賛同する研究分担者、執筆者とともに継続して取り組むこととした。令和2年7月中旬以降、研究会を開催していく予定である。

## <引用文献>

Underwood, P.R. (1995). コンサルテーションの概要 コンサルタントの立場から - . インターナショナルレビュー, 18(5), 1-4.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 植田喜久子 山村美枝 鈴木香苗 山下彰子 松本由恵 横山奈未
2. 発表標題 専門看護師のコンサルテーションにおけるClinical Pearl(格言)
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 植田喜久子 山下彰子 山村美枝 鈴木香苗 松本由恵 横山奈未
2. 発表標題 専門看護師のコンサルテーションにおける複雑で対応困難な問題の明確化
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下彰子 植田喜久子 山村美枝 鈴木香苗 松本由恵 横山奈未
2. 発表標題 専門看護師のコンサルテーションにおける判断と行動
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山村 美枝  (Yamamura Mie)  (20277891)	日本赤十字広島看護大学・看護学部・教授    (35414)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松本 由恵 (Matsumoto Yoshie) (00583915)	日本赤十字広島看護大学・看護学部・講師  (35414)	
研究分担者	鈴木 香苗 (Suzuki Kanae) (90595844)	日本赤十字広島看護大学・看護学部・講師  (35414)	
研究分担者	横山 奈未 (Yokoyama Nami) (50638591)	日本赤十字広島看護大学・看護学部・助教  (35414)	
研究分担者	若林 彰子(山下) (Wakabayashi Akiko) (10779705)	日本赤十字広島看護大学・看護学部・助教  (35414)	